

リナシティ かのや

再開発ビル名称

『リナシティかのや』に決定！



今年4月にオープン予定の再開発ビルの名称が『リナシティかのや』に決定しました。名称は、同ビルの建設を進める独立行政法人都市再生機構が、市内の小中学生に公募集まった737点の中から、二次審査を通過した10作品で市民投票を行い決定しました。リナシティは、西原台小1年の光同寺萌さん（7歳）の応募作品で、『Renewal Active City（リニューアルアクティブシティ）』の略。元気の出るまちになるように願いが込められているそうです。

12月14日、鹿屋商工会議所で行われた表彰式では、名付親大賞を受賞した光同寺さんが「嬉しい。楽しいビルになつてほしい」と喜んでいました。



名付け親大賞の光同寺さん親子



入賞した10人と家族の皆さん

拉致被害者と特定失踪者のパネル展を開催



拉致問題への関心を高めようと今年初めて設けられた「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」（12月10日～16日）の一環として、12月11日～15日まで、鹿屋市役所で拉致被害者や特定失踪者を紹介する写真パネル展が開催されました。現在、日本政府は17人の日本人を北朝鮮による拉致被害者として認定しています。

輝北町市成出身の市川修一さんも政府が認定する拉致被害者のひとりです。今から28年前になる昭和53年に、交際していた増元るみ子さん（始良町出身）と吹上浜に出かけ消息を絶っています。北朝鮮によると、昭和54年7月に2人は結婚し、市川修一さんは同年9月に心臓麻痺で死亡。増元るみさんも昭和56年に心臓麻痺で死亡したとされていますが、これを裏付ける資料等の提供はありません。

このほか、拉致の疑いが濃いとされる特定失踪者は、250人を超えといわれており、この中には、ご家族が鹿屋市内に在住する園田一敏子さん夫妻も含まれています。

【問い合わせ】

市福祉政策課

0994・31・1113



家族と一緒に撮影したもののほか、32点の拉致被害者や特定失踪者の写真パネルが展示されました。

